

1 年 国語科学習指導案

1. 日 時 平成29年10月31日(火)(1時55分～2時40分)
2. 学年・組 第1学年1組 在籍 35名
3. 単元名 いろいろなおはなしをよんで、好きところをしゅ人こうに「お手紙カード」でつたえよう。
(「スイミー」文レオ・レオニ 訳 たにかわ しゅんたろう1年)

4. 付けたい言語の力とそれにふさわしい言語活動

本単元で付けたい力を「C 読むこと」の指導事項の中から以下の3点とする。

ウ. 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。

オ. 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表すること。

カ. 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。

これらの力を育むために、主人公に「お手紙カード」を書くという言語活動を取り入れる。本単元で扱う教材文「スイミー」は、主人公(スイミー)の行動や会話に、気持ちの変化が素直に表現されていて、主人公の気持ちに寄り添いながら読むのにふさわしい。「お手紙カード」を書くためには、その行動や会話に着目して読み、主人公に対する自分の思いを伝える力が必要となる。また、それを紹介するという目的をもって、いくつかの物語を読み、「お手紙カード」を書きたい本(主人公)を選ぶことも必要となる。児童が主体的に楽しんで取り組み、「お手紙カード」書くことは、本単元のねらいに適した言語活動であると考え。

5. 単元間の関連

前単元(1年・10月)

本単元(1年・11月)

次単元(1年・2月)

単元名

いろいろなおはなしをよんで
「人物しょうかいカード」をかこう。
「おとうとねずみチロ」

○登場人物の行動や会話に着目し、
想像を広げて読む。

単元名

いろいろなおはなしをよんで、好きところを
主人公に「お手紙カード」で伝えよう。
「スイミー」

○場面の移り変わりに気を付けて、登場人物の行
動や会話に着目し、想像を広げて読む。

単元名

好きところをこえに出してよう
「はないっばいになあれ」

○場面の様子や登場人物の行動、会話に
着目し、想像を広げて読む。

6. 学習目標

○登場人物に寄り添いながら物語を読むことで、想像が広がる楽しさを味わい読書活動を豊かにする。

- ・登場人物の行動や会話に着目して、物語の内容を捉えることができる。
- ・物語の好きところを選び、主人公への「お手がみカード」で紹介し合うことができる。

7. 評価規準

国語への関心・ 意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・いろいろな物語を 読んで、人物に手 紙を書く活動に意 欲的に取り組もう としている。 (Cカ)	・人物がしたことを想像し、そのときの様子や気持ち を考えながら読んでいる。(Cウ) ・物語を読んで好きところを見つけ、人物へのお 手紙にしてまとめて伝え合っている。(Cオ) ・いろいろな本を読み、友達に紹介するための本を 選んでいる。(Cカ)	・感想を伝える言葉にはさまざまな ものがあることに気付いている。 (伝国イウ) ・文の中における主語と述語の関係 について注意している。(Cイ・ カ)

8. 指導にあたって

【単元観】

本教材は、まぐろに襲われ仲間を失った主人公スイミーが、恐怖、孤独、深い悲しみを味わいながらも、「すばらしいもの」「おもしろいもの」を見つけ、その生き物たちとの出会いを通して、元気を取り戻していくという展開である。そして、再び新たな仲間を見つけたとき、どう生きるかを考え、知恵を絞り、その仲間と協力して大きな魚を追い出すという結末になっている。児童は、小さなスイミーに共感しながら海の中を旅し、知恵と勇気をもって大きな魚に立ち向かうスイミーに強く心ひかれるだろう。

本教材には三つの特長がある。一つ目は、一文が短く、スイミーのしたことや言ったことが明確に表現されている。そのため、スイミーの行動や会話に着目しやすく、自分の生活経験と重ねながら、スイミーの気持ちに寄り添って読み進めていくことができる。また、勇気や協力などの価値についても考えることができる。

二つ目は、場面の移り変わりとともにスイミーの気持ちや様子も変化している。そのため、場面と場面を比較して読むことで、スイミーの心の変容を捉えることができる。

三つ目は、表現の工夫が多く見られる。「なまえは スイミー。」「にげたのはスイミーだけ」というように叙述が詩的である。加えて、「にじいろの ゼリーのような くらげ。」「水中ブルドーザーみたいな いせえび。」というように体言止め、倒置法、比喩などが効果的に使われている。これらの語句や、挿絵に着目させることにより、海の中の様子やスイミーの心情を豊かに想像して読むことができる。

このように、教材の特長を生かして、スイミーに同化して心内語を書いたり、スイミーを応援したり、頑張りを認める手紙を書いたりする活動を取り入れることによって、自分の思いをふくらませ、楽しみながら読むのに適した教材である。

【指導観】

本単元では、物語や主人公の好きなところを主人公に「お手がみカード」で伝え、紹介し合うことをねらいとし、登場人物の行動や会話から想像を広げて読んだり、主人公や物語の好きなところを見つけるために本を読んだりすることを指導する。そこで、まず、ブックトークをして、「スイミー」と同じ作者の本や、主人公が活躍する本を10冊程度紹介する。10冊程度にした理由は、指導者による読み聞かせも含め、全員が全てを読み、共有できるようにするためである。図書室や地域の図書館からそれらの本を集めて教室に絵本コーナーを作り、いつでも手に取って読めるようにして並行読書を促す。読んだ後には、「どくしょちょ金」に本のタイトル、主人公の名前、お気に入り度数（星の数で表す）を記録し、Ⅲ次での好きな本を選んで、「お手がみカード」を書く際に役立てるようにする。絵本コーナーには、海の中の様子がわかる絵本や図鑑などの資料もそろえておく。

第Ⅰ次では、単元の導入として、指導者がこれまでに読み聞かせをした本の中から人気の高かった主人公を選び、その主人公に宛てて書いた「お手がみカード」を提示する。「お手がみカード」を見せながら読むことで、児童の興味関心を高められるようにしたい。次に、教材文の題名と挿絵を見せ、物語の内容を想像し、自由に発表できるようにする。その後、指導者の絵本による範読を聞き、リード読みで音読した後、初発の感想を書く。その際、「おもしろい」「どきどきする」「ほっとする」などの感想を表す言葉を提示する。それらの言葉を用いて書かせることで、スイミーの言動により着目できるようにしたい。また、一番好きな文とその理由、スイミーに聞きたいことも書くようにし、読みの課題につなげていきたい。観点に沿って感想を書いた後、読みの基盤作りをするために順不同の挿絵を話の順に並び替え、「誰が出てきたのか」「何をしているのか」を確かめたり、初発の感想を交流したりしながら、物語のあらすじをつかませるようにする。さらに、最初と最後の挿絵を比較して、同じところ、違うところを話し合い、「なぜ、一匹の大きな魚になったのか」という読みの大きな課題をつかめるようにしたい。場面分けでは、場所の移動や時間の経過、登場人物の変化についても捉えることができるようにする。場面分けの後、スイミーに聞きたいことを出し合い、読みの課題を立てるようにする。そして、教材文に出てきた主人公（スイミー）の様子や気持ちを想像しながら読んでいくことや、「スイミー」の好きなところを見つけながら読むこと、同時にいろいろな物語を、好きなところを探しながら読み、記録をためていくこと、最後に好きな主人公に「お手がみカード」を書くことを伝え、学習の見通しを持つことができるようにする。

第Ⅱ次では、課題解決のキーワードとなる言葉を学習に組み込み、それらの言葉を実感しながら理解できるようにしたい。そのため、動作化や音読（役割読み）、挿絵（絵本からも）、比較を多く取り入れながら学習を進めていく。挿絵と挿絵や場面と場面の比較から、スイミーの様子や行動、心の変容に気付くことができるようにしたい。また、スイミーに同化し、心内語を書いたり、まぐろや海の生き物の様子を動作化したりすることで、スイミーの気持ちと場面の様子をつなげながら想像できるようにする。心内語を書く際は、児童が作成したスイミーの変身メダルをかけ、よりスイミーになりきって書けるようにする。自分の言葉で書くことに抵抗がある児童には、ヒントカードを用意し、自分が共感するスイミーの思いを視写できるようにする。まぐろがやってきた場面では、まぐろとスイミーの大きさを比較し、「おなかをすかせて」「ミサイルみたいに」「一ぴきのこらず」などに着目させ、まぐろの恐ろしさを捉えさせたい。海のすばらしい生き物に出会う場面では、「～みたいな」の比喻表現や児童の生活経験と知識から、美しく面白い海の世界をイメージ豊かに読めるようにしたい。また、大きな魚になる場面では、スイミーがリーダーとなり、小さな赤い魚たちに教えるために言ったことを書かせ、泳げるようになるまでには相当な訓練と時間、連帯感が必要であったことを捉えられるようにしたい。Ⅱ次の最後には、「スイミー」の物語の好きなところをスイミーに伝えるため、「お手紙カード」を書く。「お手紙カード」には、好きなところとその理由、好きなところの主人公の絵と心内語を書くようにする。これまでの学習や自分がスイミーになりきって書いた心内語を振り返りながら書くようにさせる。「お手がみカード」が完成したら、紹介し合い、同じ物語でもさまざまな見方や感じ方があることに気付かせたい。

第Ⅲ次では、並行読書してきた本の中から1冊を選び、「お手がみカード」を書く。紹介し合う際は、まず同じ本を選んだ児童でグループを作り、紹介し合い、その中から、おすすめて選んで全体に紹介するようにする。それぞれの好きなところや理由を聞くことで、読書の楽しさ、面白さを感じられるようにしたい。

9. 指導計画（全14時間）

次 時	学習活動	指導上の留意点（・）と評価（◇）
Ⅰ次	1 ○本を読み、主人公にお話の好きなところを「お手がみカード」で伝えるという活動に意欲を持ち、学習の見通しを持つ。 ○全文の範読を聞き、音読する。（リード読み） ○初発の感想を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者が書いた、既読の本の主人公への「お手がみカード」を提示することで、興味関心を高められるようにする。 ・並行読書をする本はあらかじめブックトークで紹介しておく。 ・最初の範読は絵本で行う。 ・「おもしろい、どきどきする、ほっとする」などの感想を表す言葉を使って書かせるようにし、人物の言動により着目できるようにする。また、好きな一文とその理由、スイミーに聞きたいことも書くようにする。
	2 本時① ○あらすじをつかみながら、初発の感想を交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵を順不同に掲示し、話の順に並び替えながら、あらすじの大体を捉えられるようにする。 ・感想を交流したり、最初と最後の挿絵を比べたりすることで、大きな学習課題をつかむことができるようにする。

	3	○場面分けをし、各場面の読みの課題を設定する。	・場所の移動や時間の経過、登場人物の変化による場面の分け方を確かめる。
	4	○進出漢字や語句の学習をする。 ○学習の計画を立てる。	・スイミーに聞きたいことを出し合い、各場面の読みの課題を設定できるようにする。 ・「スイミー」の好きなところを見つけながら、スイミーの行動や気持ちを想像しながら読んでいくこと、いろいろな物語を好きなところを探しながら読み、主人公に「お手がみカード」を書くことを確認する。 ◇興味をもって、活動に取り組もうとしている。(発言) ◇学習の見通しを持つことができたか。(発言)
Ⅱ次	5	○スイミーはどんな魚なのかを考える。	・設定の場面からスイミーの特徴や様子を捉え、スイミーになって自己紹介を書くことができるようにする。
	6	○まぐろがやってきたときの、まぐろの恐ろしさや、スイミーの思いを考える。	・スイミーに同化して書くときには、スイミー変身メダルをかけ、スイミーになりきれるようにする。
	7	○一人ぼっちになったスイミーの様子や思いを考える。	・「おなかをすかせて」や「ミサイルみたいに」、「一ぴきのこらずのみこんだ」等の言葉から、まぐろの恐ろしさを捉えられるようにする。
	8	○すばらしいもの・おもしろいものを見て、スイミーが思ったことを考える。	・「にげたのはスイミーだけ」から、スイミーの思いを考えることができるようにする。
	9	○スイミーが、小さな魚の兄弟達に伝えたいことを考える。	・スイミーになって、何が怖かったのか、寂しかったのか、悲しかったのかを書き、スイミーの気持ちを考えられるようにする。
	10	○スイミーは、どのようにして大きな魚を追い出したのかを考える。	・海の生き物の挿絵や比喻表現、また、自分の生活経験や知識を結びつけ、美しく素晴らしい海の世界をイメージできるようにする。
	11	○スイミーに「お手がみカード」を書く。	・スイミーのペープサートを活用して、海の生き物を見てスイミーが言っていることを、自分の生活経験や知識を結びつけて書けように助言する。
Ⅲ次	12	○選んだ本の主人公に「お手がみカード」を書く。	・「だんだん」という言葉に着目し、スイミーがなぜ元気を取り戻したのか理由を考えることができるようにする。
	13		・第3場面のスイミーと第5場面のスイミーを比較して、スイミーの心の変容に目を向けられるようにする。
	14	○「お手がみカード」を紹介し合う。	・小さな魚の兄弟達に伝えたいことを書くようにする。
			・スイミーが小さな赤い魚たちに教えたことを書き、リーダーとして一生懸命頑張ったことを捉えられるようにする。
			・まぐろを追い出せた理由や追い出せた後のスイミーたちの思いについて考えるようにする。
			・好きなところとその理由、スイミーの絵と吹き出しを書き、スイミーに伝えることができるようにする。
			◇スイミーに同化して文を書いたり、異化して手紙を書いたりすることができたか。
			◇自分の考えを友だちに伝えることができたか。
			◇同じ話でも様々な捉え方があることを感じることもできたか。
			・並行読書してきた本の中から1冊選び、読み直しをしながら色付箋をつけて、好きなところを探すようにする。
			・好きなところとその理由、主人公の絵と吹き出しを書いて、主人公に伝えられるようにする。
			・同じ本を選んだ友達とグループになり、それぞれ書いた「お手がみカード」を紹介し合った後、各グループから1枚選び、全体に紹介し合う。
			◇主人公に「お手がみカード」を書くことができたか。
			◇好きなところを友達に紹介することができたか。(発言)

1 0. 本時①の学習 (第 2/14 時)

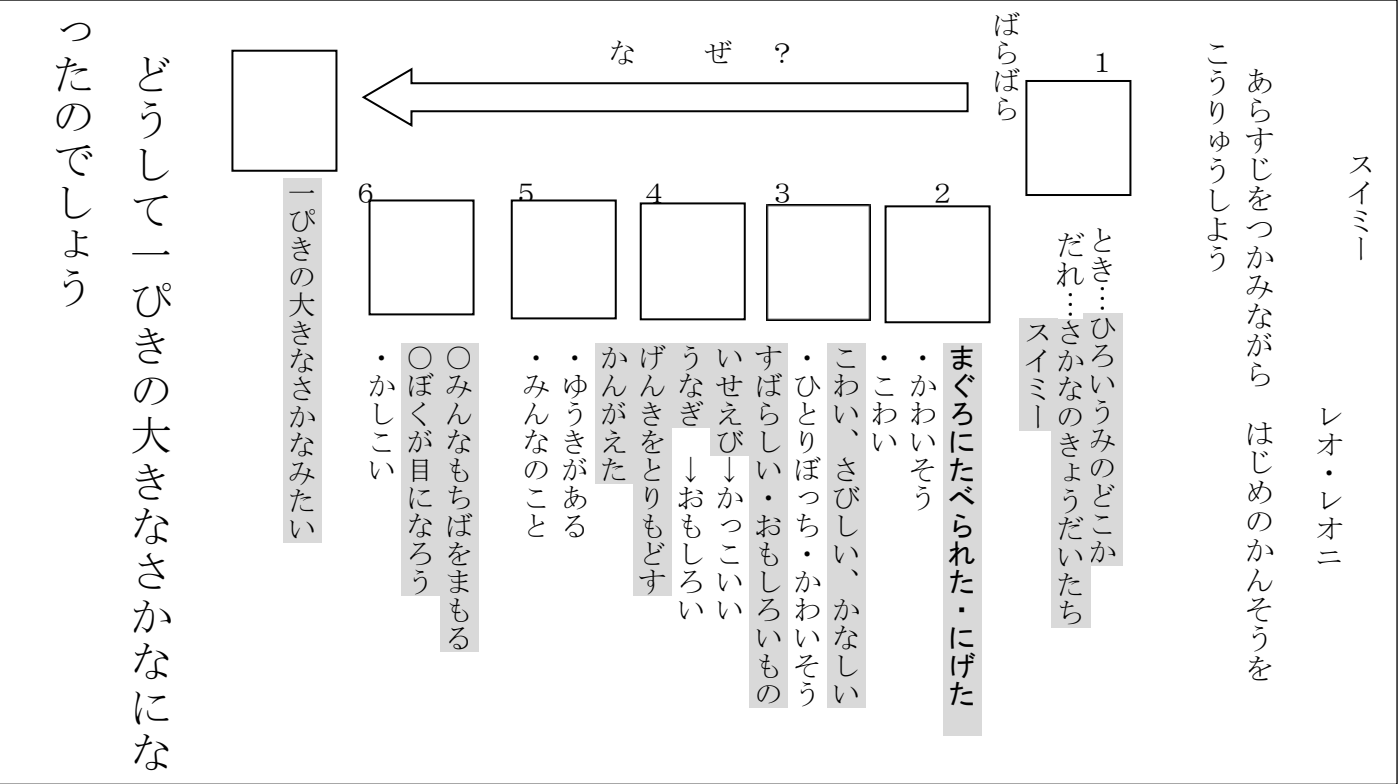
① 本時の目標

- ・、初発の感想を交流しながら、あらすじをつかむことができる。

②本時の展開

学習活動	主な発問 (○) と指示 (△)	指導上の留意点(・)と評価(◇)
1. 本時の課題を確認する。	△みんなで今日の課題を読みましょう。	・本時の学習課題を確認できるようにする。
あらすじをつかみながら、はじめのかんそうをこうりゅうしよう。		
2. 全文を音読する。 ・一斉読み	△スイミーがしたこと順序を確認しながら音読しましょう。	
3. 話の順序を確認する。 ・挿絵を並び替える。 ・話の設定をつかむ。	△話の順に挿絵を並び替えましょう。 ○この話は、だれが中心の話でしょう。 ○場所はどこでしょう。	・第1から第6場面の挿絵を順不同に黒板に貼り、確認しながら並び替える。 ・登場人物や場所等の大まかな設定をつかめるようにする。 ・最初と最後の挿絵を比べて、類似点や相違点を見つけ、大きく変化したことをとらえるようにする。
4. 2つの場面の挿絵を比べる。	○同じところや違うところを見つけて書き、発表しましょう。	◇類似点や相違点を見つけて発表しているか。
5. 初めの感想を交流する。	△自分の感想と友達の感想を比べながら聞き、話し合しましょう。	・第4場面や第1場面を中心に、好きな場面とその理由を先に発表できるようにする。その後第5、第6場面の感想を交流できるようにする。
6. 読みの課題をつかむ。	△これから、どうして1ぴきの大きなさかなになったのか考えていきましょう。	・大きく変化した理由を考えていくことで、単元全体の読みの課題をつかめるようにする。

1 1. 板書計画 (第 2/14 時)



① 本時の目標

- ## ②本時の展開

11・板書計画（第8/14時）

